

# 目次

- 85 巻頭言 中道 正之
- 
- 86 連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第17回  
屋久島の交尾期につかんだ新発見・・・山極 壽一
- 
- 88 連載「今日もOSARU日和」第7回  
雨降りの動物園で・・・竹下 景子
- 
- 90 連載「生態学者が往く」第13回  
北海道・厚岸の旅・・・湯本 貴和
- 
- 92 連載「野生動物を遺伝子から見る」第8回  
ウズラゲノムプロジェクト・・・村山 美穂
- 
- 94 連載「野生動物のおなかの中の秘密 パート2」第2回  
腸内細菌学との出会い ～チンチラの腸内細菌のふしぎ・野生動物の腸内細菌のふしぎ～・・・土田 さやか
- 
- 96 連載「大型類人猿探訪」第20回  
ヒトとチンパンジーの子どもの発達・・・林 美里
- 
- 98 連載「ウマ学ことはじめ」第20回  
ウマの大きさを測る・・・パンドラ・ピント
- 
- 100 連載「自然と芸術」第17回  
寄せ集めの自然が創る芸術——カリブ海の風景から・・・大辻 都
- 
- 102 連載「海外生息地調査」第20回  
ブッシュミート危機と野生動物マネジメント・・・本郷 峻
- 
- 104 連載「動物園・水族館だより」第11回  
仲間と育つ。仲間から学ぶ。・・・田中正之
- 
- 106 連載「環境教育実践」第19回  
飼育ジェフロイクモザルの取り組み合い行動・・・上田 菜名穂、臼井 瑞穂、原 陽南乃
- 
- 108 人間の娯楽にチンパンジーを利用することの何が問題か  
松阪 崇久、徳山 奈帆子
- 
- 110 ヘリウムを吸ったワニとサル 西村 剛
- 
- 112 イベントのご案内・ご寄附のお願い

■表紙 P106「飼育ジェフロイクモザルの取り組み合い行動」より  
撮影：新宅 勇太(公益財団法人日本モンキーセンター・京都大学霊長類研究所)

# 巻頭言

## 中道正之（大阪大学大学院人間科学研究科）

日本モンキーセンター（JMC）が1956年に設立され、その翌年にはJMCから2冊の雑誌の発行が始まりました。1つは、「モンキー」。この雑誌です。当初から、サルたちの生態や行動が平易な文章でつづられていますが、研究の面からも貴重な情報が満載でした。

もう一つは「<sup>プリマーテス</sup>Primates」。Primatesは霊長類の意味です。この雑誌は霊長類を対象とした研究論文を発表するための学術雑誌です。最初の巻は日本語で書かれていましたが、2巻からはすべて英語の論文です。「Primates」の刊行が始まったころには、霊長類の研究をしている人たちは日本と欧米のわずかな国に限られていましたが、今は、世界中に広がっています。「Primates」は霊長類学の分野で最初に発行が始まった学術雑誌です。JMCから発行されている雑誌ですが、投稿されてきた論文を審査する人たちは日本の研究者だけでなく、世界中の研究者です。論文を投稿する人たちも世界中の研究者です。40年近く前に、私は最初の論文を「Primates」に投稿して、掲載してもらうことができました。そして、このたび、この国際的な学術雑誌である「Primates」の編集長を私が引き受けることになりました。とても光栄なことなのですが、たいへん重い責任も感じています。「モンキー」の読者の中から、「Primates」で論文を発表する研究者がたくさん現れることを楽しみにしています。

ところで、私が知っている多くのサル研究者には1つの特徴があります。何年も同じ種類のサル

を研究しながら、他のサルの研究もときどきおこなう、あるいは1つの群れを何年も追いかけてながら、別の群れも見にでかけることがあるということです。ニホンザルをしっかりと研究した後に、アフリカでチンパンジーやゴリラを何年も見続けている人もあります。私はニホンザルの1つの群れのサルの顔と名前を覚え、30年以上にわたって研究を続けています。アメリカの動物園でくらすゴリラの群れの観察も続けています。自分の研究の中心になるサルの群れを見続けていると、別の群れのサルや、別の種類のサル、あるいは霊長類以外の動物を見ると、とても新鮮な驚きを体験できます。それが自分の見続けている群れでの新しい発見にもつながり研究が前進します。他流試合のようなものかもしれません。

動物園の楽しみ方も同じだと思います。自分のなじみの動物園をつくる、だから、よく知っている動物たちもできる。そして、他の動物園も訪れる。そうすると、新しい動物との出会いが、なじみの動物の再発見につながると思います。試してください。



中道正之  
なかもち まさゆき

大阪大学大学院人間科学研究科教授。2015年から4年間、日本霊長類学会会長。2021年1月から学術雑誌「Primates」の編集長。ニホンザル、マダガスカルワオキツネザル、動物園のゴリラ、さらには動物園でくらすキリンやサイの行動研究などを通じて、行動の進化、人間の本性の理解を目指している。著書に『ゴリラの子育て日記』（2007年）、『サルの子育て ヒトの子育て』（2017年）、『ニホンザルの暮らしと心 岡山・神庭の滝の群れの60年』（2019年）など。